

八ヶ岳山麓には湧き水が多く、水が創った造形物が数多く点在している。盃流しと不動清水はその造形物の一つ。盃流しを訪れた犬養毅（木堂）は流れの道筋に凹んだ石の窪みを、水が移動し流れ下る様を見て、故事に言う曲水（上流から盃を流して詩を詠み盃の酒を干す）にぴったりの場所だと思った。その風流に感動して、木堂は「曲水」、射山こと小川平吉は「神仙秘境」と揮毫し、現地の自然石に刻んだ。二つの石は並んで盃流しの奇観を眺めているいが、水は流れ去り、現在では凹みから溢れてまた次の凹みへと豊かに流れる姿を目にすることは少ない。

変わらないものと変わりゆくものの狭間で「盃流し」の名所もまた、深く真実の時を刻んでいる。

